



埼玉県マスコット

「コバトン&さいたまっち」

# 平成28年産 大豆の作柄概況



(平成29年3月)

埼玉県農業技術研究センター

## 1 気象概況

### (1) 気温

平均気温は、低気圧の影響で曇雨天の多かった7月下旬と、台風が接近した8月下旬を除き、6月下旬～10月下旬まで平年並から高く推移した。特に9月上旬で平年より1.9℃、下旬で2.4℃高く、月平均で平年より1.5℃とかなり高かった。10月上旬から下旬までは平年並から高く、特に上旬で平年より2.6℃とかなり高かった。

### (2) 降水量

降水量は、6月下旬～8月中旬までは平年並から少なく推移した。特に7月上旬の降水量は平年比で10%以下となり、かなり少なかった。8月下旬は台風9号と10号が接近した影響で、旬合計降水量が300mmを超え、平年に比べてかなり多くなった。9月中旬は台風16号や停滞した前線の影響で平年より多かったが、下旬は平年より少なく、月合計では平年並となった。10月は、中旬と下旬にそれぞれ一日ずつややまとまった降雨があったものの、それ以外はほとんど降雨がなく、月平均で平年比23%とかなり少なかった。

### (3) 日照時間

日照時間は、低気圧や前線の影響で曇雨天の多かった7月下旬と8月中旬を除き、6月下旬～9月上旬まで、平年並～多く推移した。9月中旬～10月上旬までは本州付近に停滞した前線の影響で曇雨天の日が多く、平年より少なく推移した。特に9月中旬は平年比22%となり、かなり少なかった。

### (4) 熊谷地方気象台の観測記録

		6月	7月	8月	9月	10月
平均気温	本年	22.7	25.5	27.2	24.3	18.1
	平年	21.7	25.3	26.8	22.8	17.0
	平年差	1	0.2	0.4	1.5	1.1
		高い	平年並	平年並	かなり高い	高い
降水量	本年	121	62.5	418.5	219	34.0
	平年	145.4	161.6	192.6	208.3	146.1
	平年差	83%	39%	217%	105%	23%
		平年並	かなり少ない	かなり多い	平年並	かなり少ない
日照時間	本年	151.6	134.9	165.6	93.9	151.4
	平年	125.5	136.9	166.5	120.8	148.2
	平年差	121%	99%	99%	78%	102%
		多い	平年並	平年並	少ない	平年並

\*熊谷地方気象台「埼玉県の気象・地震概況」より

## 2 耕種概要

- (1) 試験場所 埼玉県農業技術研究センター玉井試験場内水田（転換畑）
- (2) 供試品種 里のほほえみ
- (3) 播種期 6月27日
- (4) 播種様式 条播（条間65cm、株間11cm）
- (5) 施肥量 N:P:K=2:8:8kg/10a
- (6) その他 県栽培基準のとおり

注) 里のほほえみは本年度から供試を始めたため、平年値がない。そこで、参考として里のほほえみの奨励品種決定調査のデータを参考平年値として用いて、作柄の比較を行った。

## 3 「里のほほえみ」の当センター内の作柄

### (1) 生育経過

#### ア 播種～生育初期

播種前後の適度な降雨により、出芽は良好であった。また、出芽後は高温・多照で経過したため、初期生育は順調であった（表1、図1、図2）。

#### イ 開花期～開花後40日

開花期は8月3日で、開花までの日数は参考平年値に比べて4日短かった。また、8月下旬の台風の影響で倒伏や葉焼け症状が見られたが、生育に大きな影響はなかった（図3）。

#### ウ 成熟期

成熟期は10月31日であった。9月中旬から10月上旬が寡照で経過したため登熟が遅れ、開花期から成熟期までの日数は参考平年値に比べて4日長くなった。主莖長は参考平年値よりやや長く、分枝数は参考平年値よりやや少なかった。主莖節数と全莢数は参考平年値と同等であった。

### (2) 病害虫の発生

本年度はハスモンヨトウなどのチョウ目の発生は少なかったが、吸汁性カメムシの発生が多く見られた（表3）。

### (3) 収量

収量は参考平年値の108%であった。

## 4 県内全般の生育・作柄の特徴

### (1) 生育経過

本年産大豆から一般大豆は「タチナガハ」から「里のほほえみ」へ全面的に品種転換となった。

6月中下旬に定期的な降雨があったことから播種作業の開始は遅れ気味であった。7月に入って天候が回復したことから、その後の播種作業は順調に進み、7月15日には平年同様の8

割程度の進捗状況となった。（農業支援課調べ）

出芽苗立ちは概ね順調であったが、一部地域で播種後の降雨による湿害が発生し、出芽不良が見られ、減収の要因となった。

開花期までは好天に恵まれ生育前半は順調であった。しかし、幼莢期にあたる8月下旬に台風9号及び10号の影響により日降水量100mmを越える大雨となり、中小河川からの水の侵入により大豆が30cm程度浸水したほ場も見られた。このようなほ場では、葉が落葉し、幼莢も落莢するなど、減収の要因となった。

9月も台風の影響による大雨があったが、畦間滞水程度で被害は軽微であった。

「里のほほえみ」は「タチナガハ」と比較して成熟期がやや遅く裂莢しにくい。このため収穫期にあたる11月になって青立ち株の黄化を待つ間に降雨に見舞われ収穫作業が遅れ気味となった。11月末現在の収穫作業は66%と平年の75%の進捗状況であった。（農業支援課調べ）

## （2）病虫害の発生

8月の台風以降、細菌性の病害である斑点細菌病と葉焼病の発生が見られたが、紫斑病の発生は少なかった。

一部地域でカメムシの発生が見られたが、全体的に降雨が多かったことからハスモンヨトウなどの子実を食害する害虫の発生は少なかった。

## （3）収量

収穫期の裂莢によるロスが少なく、「タチナガハ」以上の収量となった地域が多かった。

農林水産省が2月21日に発表した埼玉県の大豆の単位面積当たり収量は、99kg/10aとなったが、排水管理や病虫害防除を徹底した圃場では、播種直後の湿害や台風による浸冠水等の被害が軽微だった地域で、180kg/10a程度、湿害を受けたほ場でも120kg/10a程度の収量となった。

## （4）外観品質

ハスモンヨトウなどの子実を食害する害虫は少なく、コンバイン収穫による汚粒も軽度であった。しかし、収穫が遅れたほ場では、数度の降雨により大豆の表面が薄く汚れたような軽度の汚損粒の発生が見られた。

## 5 具体的データ

表1 出芽期、開花期及び成熟期

	本年	参考平年	参考平年差
出芽期	6月30日	6月29日	1
出芽まで日数	3	5	-2
開花期	8月3日	8月4日	-1
開花まで日数	37	41	-4
成熟期	10月31日	10月28日	3
結実日数	89	85	4

注1) 参考平年値は奨励品種決定調査  
(平成25~27年、里のほほえみ)の平均

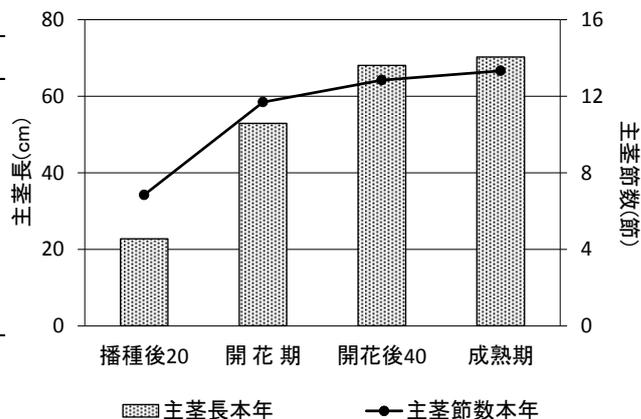


図1 主茎長、主茎節数の推移

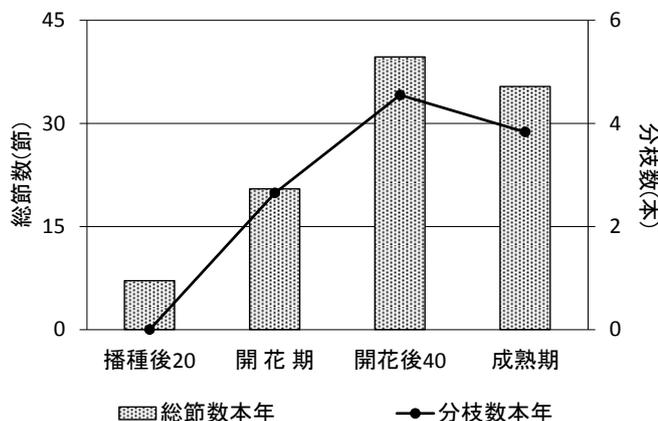


図2 総節数、分枝数の推移

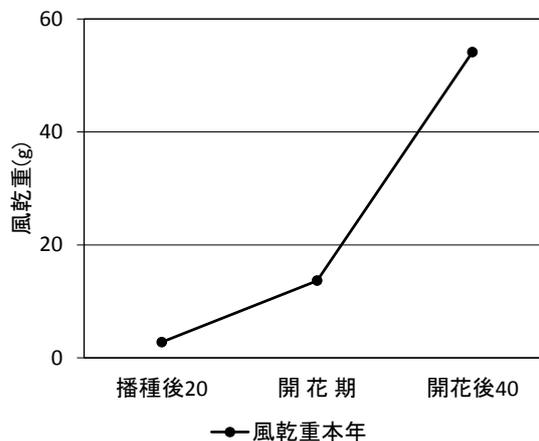


図3 風乾重の推移

表2 成熟期調査結果及び収量

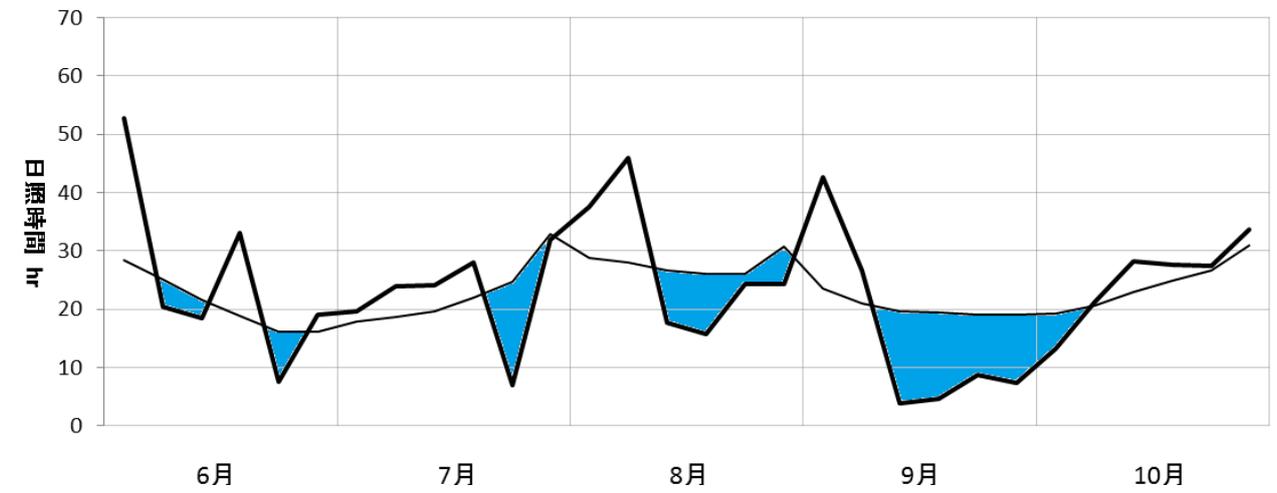
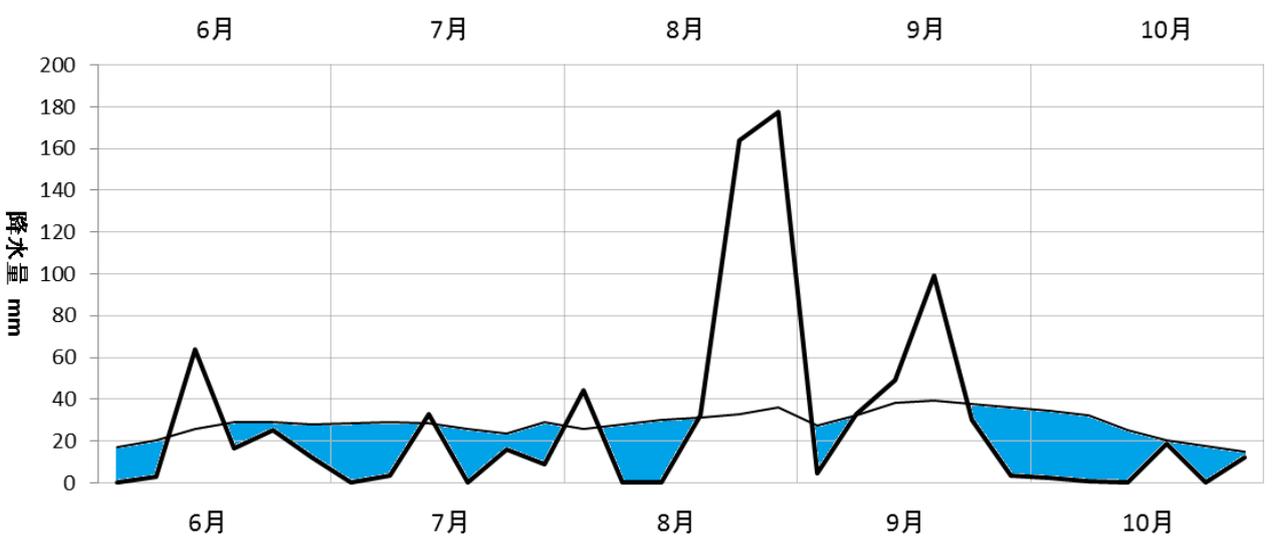
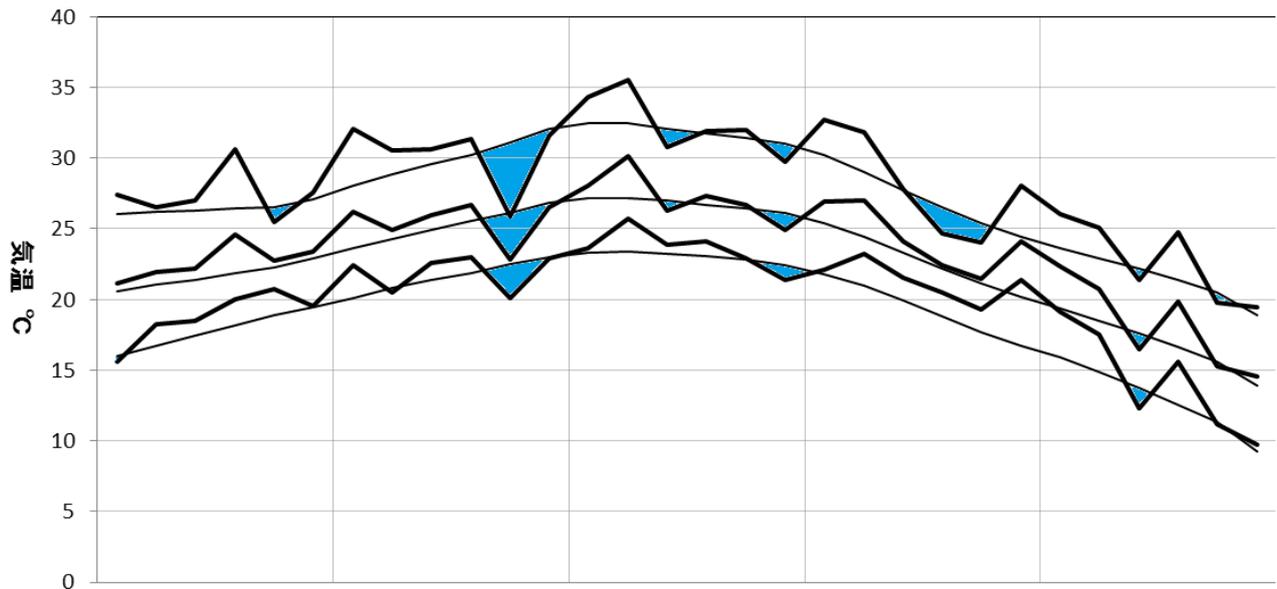
	本年	参考平年	参考平年比(%)
主茎長(cm)	70.2	61.0	115
主茎径(mm)	9.6	-	-
主茎節数(節)	13.3	13.4	100
総節数(節)	35.4	-	-
分枝数(本/株)	3.8	4.3	89
全莢数(莢/株)	54.6	55.8	98
稔実莢数(莢/株)	48.3	-	-
一莢内粒数(粒/株)	1.8	-	-
子実重(kg/10a)	401	373	108
屑重歩合(%)	1.1	-	-
百粒重(g)	42.8	41.9	102

注1) 参考平年値は奨励品種決定調査  
(平成25~27年、里のほほえみ)の平均

注2) 子実重は7.3mmの篩で調整を行った

表3 外観品質

項目	本年(%)
整粒	79.6
しわ粒	2.3
裂皮粒	8.6
カラムシ害	8.4
障害粒	
虫食害	0.3
腐敗粒	0.5
汚損粒	0.0
紫斑粒	0.0
褐斑粒	0.2



平成 28 年夏作期間気象図  
 (熊谷気象台日別測定値から作成)